

## 【基本方針4】

### 【子どもたちの体力をめぐる現状と課題】

#### ○ 子どもたちの体力

平成19年度の「体力・運動能力調査」<sup>\*30</sup>では、全国と比べ全年齢において、大阪の子どもたちは敏捷性の指標である反復横跳びの平均値が極めて低く、また、小学校では筋力の指標である握力、中学校及び府立高校では全身持久力の指標である持久走などは低い状況です。一方、小学校ソフトボール投げなど全国平均よりも高い項目もありますが、年齢や項目により差があります。

なお、平成20年度に実施された「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」<sup>\*31</sup>においては、小・中学校ともに、全種目全国平均を下回っています。

#### ○ 学校体育の状況

小学校の体育授業では、運動に親しむことにより運動が好きになることを重視しているものの、運動時間・量、強度が不足している場合があります。

また、大阪府においては、中学校及び府立高校の運動部入部率が全国平均と比べて低い状況にあります。

#### ○ 体力に関する意識

都市化や核家族化、夜型の生活などとともに、テレビゲーム・パソコンなどが子どもの生活・遊びの中に定着し、室内での活動時間が増え、身体を動かす時間が非常に減少してきています。

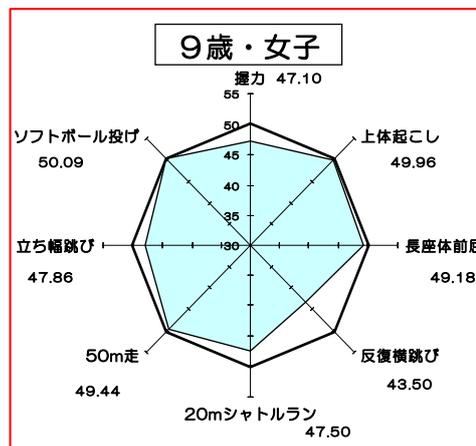
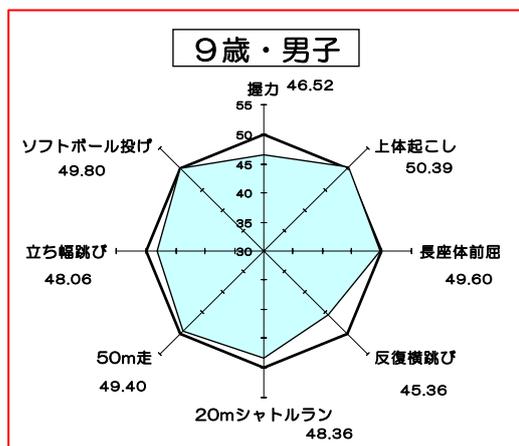
また、運動がもたらす身体への効果について理解が乏しいため、自らが積極的に体を動かそうとする意識も低くなっています。

#### ○ 家庭・地域の状況

平成20年度の「全国学力・学習状況調査」結果によると、大阪は「朝食を全くとらない・あまりとらない」と答えた児童が全体の7.3%で全国平均に比べて高く、学力面のみならず子どもたちの体力面、成長面においても課題があります。一方、地域においては、公園などの遊び場が少なく、限られたスペースで安全な遊びしかできないため、遊びが体力向上へ繋がりにくくなっています。

#### 《平成19年度「体力・運動能力調査」における大阪府と全国との比較》

(全国の平均値を50とした場合の大阪府の平均値)



## 【基本方針4】

### 子どもたちの健康と体力づくりを進めます

体力は、人間の活動の源であり、健康の維持のほか、学力をはじめとした子どもの意欲や気力の充実に大きくかかわる基本的な要素です。子どもの運動機会の減少と、体力の低下という状況を改善していけるよう、学校、家庭、地域が一体となり取り組んでいく必要があります。特に食生活などの生活習慣の改善については、家庭の協力を得て、子どもたちの健康と体力づくりを進め、生涯にわたる心身の健康の保持増進のための基礎を培います。

#### （重点項目13）学校体育の充実

- ◇ 子どもが自ら体を動かし運動量を確保できるよう、教科「体育」、「保健体育」の授業の工夫・充実及び教員の指導力の向上を図ります。
- ◇ 生徒が積極的に参加したいと思える魅力ある運動部活動を展開するため、外部指導者を活用します。また、体力づくりを推進するため、小学生を対象としたスポーツ大会を充実します。
- ◇ 学校体育に関する研究組織と連携し、学校現場に即した「体力向上実践事例集」を作成・配付し、それに基づく研修会を開催するなど、各学校における取組みを充実させます。
- ◇ 子どもたちが夢や憧れを抱き、運動に親しむ態度や習慣を身に付けるよう、関係部局と連携し、小学校にトップアスリートを派遣します。

#### （重点項目14）学校・家庭・地域における健康・体力づくり

- ◇ 保護者に対して、的確な情報を伝達して体力の重要性を認知していただくとともに、保護者の協力を得て子どもと一緒に運動する機会の促進を図ります。
- ◇ 「体力・運動能力調査」等を通じて、子どもが自らの体力・運動能力を知り、興味・関心を高めることにより、運動に対する意識の变革を図ります。
- ◇ 保護者に対して、「調和のとれた食事、適切な運動、十分な休養・睡眠」の重要性を周知するとともに、学校・家庭・地域との連携により子どもたちの生活習慣の確立を図ります。
- ◇ 養護教諭が中核となり、学校内外の関係者と連携・協力し、保健室経営の充実を図るとともに、学校保健委員会<sup>\*32</sup>の設置の推進や活性化を図り、児童生徒の多様な健康課題について研究協議や各種の研修会等を実施するなど、学校での健康教育や健康相談を充実します。

#### （重点項目15）学校における食育の推進

- ◇ 全小・中・支援学校で「食に関する指導の全体計画」<sup>\*33</sup>を策定するとともに、栄養教諭<sup>\*34</sup>をはじめとする教職員の共同での取組みのもと、環境教育や国際理解教育など様々な視点を取り入れ、各教科をはじめ学校教育活動全体を通して、学校給食を生きた教材として活用した食育を推進します。
- ◇ 中学校に学校給食又は学校給食に極めて近いスクールランチ<sup>\*35</sup>の導入を進めます。